



今月の

# ブックトーク

1948年に国民の祝日として制定されました。もともと江戸時代の伝統行事である季節の変わる節目に邪気を祓う五節句の一つ、端午の節句(旧暦5月最初の午の日)が由来とされ、男の子の行事として親しまれていますが、国民の祝日としては、「こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する」(内閣府HPより)日とし、男女の区別なく全てのこどもが対象で、幼いこどもでも読めるようにひらがなで「こども」となっています。全てのこどもの健やかな成長を実現すべく2023年4月に「こども家庭庁」も発足しました。

そこで、今回はこどもの皆さんが引き込まれる不思議な物語に招待します。まず、フランスの心理学者が著した『茶色の朝』という絵本です。突然、茶色が良い色とされ、茶色以外のペットを排除する制度ができ、仕方なくペットと別れを告げた主人公と友人の寓話です。次第に生活が茶色に染まっていき、思わぬ結末に、主人公はペットの特別措置法ができたときから警戒すべきだったと後悔しますが、時すでに遅し。



フランク・パヴロフ・物語  
ヴィンセント・ギャロ・絵  
高橋 哲哉・メッセージ  
藤本 一勇・訳  
大月書店

憲法で自由や権利を保持するには自らの不断の努力が必要である(第12条)と書かれています。不断の努力とはいったい何でしょうか。

次は、焚書の世界を描いた『華氏451度』の作者としても有名なレイ・ブラッドベリの絵本『夜のスイッチ』です。主人公は、暗い所が大嫌いな男の子です。皆さんも暗がり



レイ・ブラッドベリ・文  
マデリン・ゲキエア・絵  
北山 克彦・訳  
晶文社

## 5月(皇月)「こどもの日」

前田 由紀

／渋谷教育学園渋谷中学高等学校司書教諭

が怖くて寝るときに小さな明かりをつけていた経験がありませんか。しかし、ダークという女の子が不意に現れてからは、男の子の世界が全く変わってしまいます。この発想の転換に読んでいた私は思わずはっとしてしまいました。魔法というしかありません。

今度は、9つのお話が詰まった文字通り『奇妙でフシギな話ばかり』です。最初のお話は、「天使の箱」。八歳の時に天使から箱の中身を見ずに預かってほしいと頼まれ、どんな境遇におかれてもその箱を守り抜く男のお話。浦島太郎の玉手箱のようだと思いながらも、箱の中身は何なのか居ても立ってもいられなくなります。その箱の秘密とは。この結末も意表を突か



ブルース・コウヴィル・作  
金原 瑞人・訳  
橋 賢亀・絵  
岩波書店

れます。幻想的なお話ばかりですが、「うつくしい最後」では、異世界のエルフから人間がどう見えているか。最後のエルフの王の言葉に心打たれました。

最後に、「守り人シリーズ」等で親しまれている物語の名手、上橋菜穂子さんに語ってもらいましょう。『物語ること、生きること』です。いかに上橋作品が生まれてきたのか、彼女の幼少期から振り返ります。祖母から昔話を聞き、強さへの憧れから竹刀を振り



上橋 菜穂子・著  
瀧 晴巳・構成・文  
講談社

回し、本の虫で本屋の立ち読みに熱中、特にイギリス児童文学に傾倒し、高校の英国研修旅行で憧れの作家に手紙を出して実際に出会えたことも驚きです。弱虫を自認しつつ彼女が言う「自分で自分の背中を思いつき蹴っ飛ばす」勇気もちたいものです。

最後のページのクイズの答え Q1 ① カテキン Q2 ③ 函館 Q3 ① 男の子が事故や病気がなく過ごせるよう、お守りとして Q4 ③ 柏の葉は新芽が出ないと古い葉が落ちないことから、子孫繁栄

※「今月のブックトーク」「図書館クイズ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご活用ください。

